

197 十字架上での最初の3時間(1)

ヨハネによる福音書 19 : 17~27、マタイ 27 : 32~44、マルコ 15 : 21~32、ルカ 23 : 26~43

こうして、彼ら（→祭司長たちやユダヤ人たち）はイエスを引き取った。

17 イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。→⑧

18 そこで、彼らはイエスを十字架につけた。

また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。

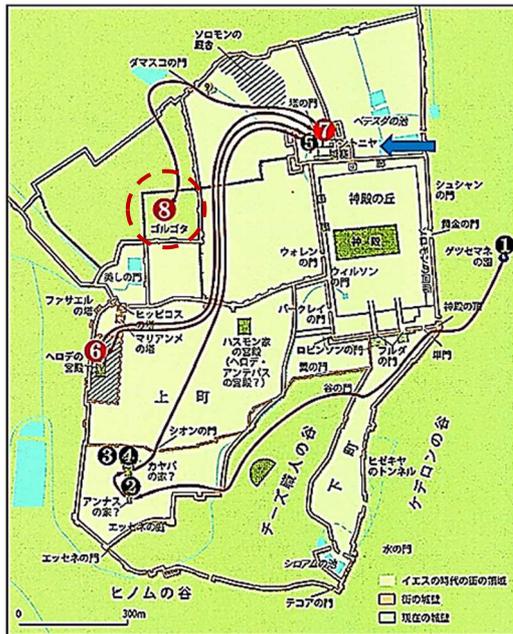
→マルコによる福音書 15 : 25

イエスを十字架につけたのは、**午前九時**であった。

→十字架（スタウロス：ギリシア語）の形状

- ①柱型
 - ②X字型：斜め十字、サルタイアー
 - ③T字型→罪状書きが付けられない（19節）
 - ④十字型
- } 主にイタリアで使用

・・・以上、前回（ファイル No.196）の出来事・・・



出典(図): バイブルガイド(いのちのこぼ社): 地名等は口語訳表記

19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。

→罪状書きは、誰もが読めるようにラテン語（ローマの公用語）やヘブライ語、ヘブライ語に似たアラム語、ギリシア語（地中海地域の様々な民族の共通語）で書かれた（多くのローマ人たちはギリシア語を話した）。→20節

→INRI（ラテン語）

I : IESVS	= JESUS	} JESUS THE NAZARENE, KING OF THE JEWS
N : NAZARENVS	= THE NAZARENE	
R : REX	= KING	
I : IVDAEORVM	= THE JEWS	

⑧ラテン語の「V」=英語の「U」



20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、

多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。

→回復訳：それはヘブル語、ラテン語、ギリシア語で書かれていたからである。

→N I V : and the sign was written in Aramaic, Latin and Greek.

→N K J V : and it was written in Hebrew, Greek, and Latin.

21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください」と言った。

22 しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」（→「ごちゃごちゃ言うな」という意味合い）と答えた。

23 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、(いつものように) その服を取り、四つに分け (→NIV : four shares /NKJV:four parts)、各自に一つずつ渡るようにした。→当時の死刑執行者の習慣 下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。

・・・ルカは、イエスが十字架の死に瀕しても、罪を赦すメシアであることを記している・・・

ルカによる福音書 23 : 34
 [そのとき、イエスは言われた。「**父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。**」] →このイエスの祈りによって、神の怒りが鎮められた。→**第1の言葉**
 人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。

24 そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。
 →詩編 22 : 19 わたしの着物を分け／衣を取ろうとしてくじを引く。

25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。

【参考】ヨハネによる福音書 19 : 25 の解釈 →マタイ 27:56 とマルコ 15:40 は同じ内容の記述がされている。
 19:25 イエスの十字架のそばには、**①①その母と②④母の姉妹、⑤クロパ**[アラム語] (→アルファイ[ギリシア語]の別名=クレオパ Cleopas [ルカによる福音書 24 : 18]) **の妻マリアと③②マグダラのマリアと**が立っていた。(新共同訳、聖書協会共同訳)

→Near the cross of Jesus stood his mother, his mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW INTERNATIONAL VERSION)

→Now there stood by the cross of Jesus His mother, and His mother's sister, Mary the wife of Clopas, and Mary Magdalene. (NEW KING JAMES VERSION)

→さて、イエスの十字架のそばには、イエスの母と、母の姉妹と、クロパの妻マリヤと、マグダラのマリヤとが、たたずんでいた。(口語訳)

→イエスの十字架のそばには、彼の母、彼の母の姉妹でクロパの妻マリヤ (=母の姉妹とクロパの妻マリアとが同じ人)、マグダラのマリヤが立っていた。(回復訳)

→兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。(新改訳)

∴①～③と読めば、3人、**①④⑤②**と読めば、4人と読むことができる。そして、**③④**はイエスの母マリアの姉妹となり、文脈から言って、「サロメ」と解釈できる(イエスの母マリアとサロメは姉妹関係)。

イエスの十字架の時、そばにいた人たち(人名等は聖書の記述順)

マタイによる福音書	27 : 56	① マリア (→子：イエス、小ヤコブ、ヨセ(ヨセフ)、ユダ、シモン) ② マグダラのマリア ③ ゼベダイの子(大ヤコブ、弟のヨハネ)らの母サロメ
マルコによる福音書	15 : 40	② マグダラのマリア ① 小ヤコブとヨセ(=ヨセフ)の母マリア ③ サロメ (→ゼベダイの子である大ヤコブと使徒ヨハネの母なるマリア)
ヨハネによる福音書	19 : 25	① マリア (←その母) ④ 母の姉妹 ⑤ クロパの妻マリア ② マグダラのマリア

回復訳：イエスの母の姉妹でクロパの妻マリヤ
 →母の姉妹=クロパの妻マリアとが同じ人

26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子（→ヨハネ）とを見て、母に、「**婦人よ、御覧なさい。あなたの子です**」と言われた。

→「愛する弟子」という表現は、ヨハネの独特の表現で、この聖句（26節）と小タイトル「イエスとその愛する弟子」（ヨハネ 21：20～25）の2か所のみならず、登場しない。

27 それから弟子（→ヨハネ）に言われた。「**見なさい。あなたの母です。**」

そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

【参考】ヨハネ Johannes

「十二使徒の名は次のとおりである。まず①ペトロと呼ばれるシモンと②その兄弟アンデレ、③ゼベダイの子ヤコブと④その兄弟ヨハネ、⑤フィリポと⑥バルトロマイ、⑦トマスと⑧徴税人のマタイ、⑨アルファイの子ヤコブと⑩タダイ、⑪熱心党のシモン、それに⑫イエスを裏切ったイスカリオテのユダである。」（マタイによる福音書 10：2～4）

→John「神は慈しみ深い」（ヘブライ語）／ゼベダイの子、漁師／ガリラヤ出身／大ヤコブの弟

ゼベダイの子で大ヤコブの弟、ガリラヤの漁師の子。イエスを洗礼した洗礼者ヨハネの弟子。洗礼者ヨハネと区別するために特に「使徒ヨハネ」と呼んだり、「ゼベダイの子ヨハネ」「福音記者ヨハネ」と呼ぶこともある。ヤコブ、ペトロと共にイエスの一番弟子であり、常にイエスと行動を共にした。

兄弟ともに性格が激しく、勝ち気で、自分こそイエスの一番の弟子だと考え、仲間たちから〈ボアネルゲス〉（雷の子ら）とあだ名をつけられた。イエスが十字架にかけられたときも弟子としてただ一人、十字架の下にいた。また、イエスの墓が空であることを聞いてペトロとかけつけ、真っ先に墓にたどりついた。

イエスの母マリアを連れエフェソに移り住んだヨハネは、その後、パトモス島（エーゲ海に浮かぶギリシアの小島）に幽閉され、そこで「ヨハネの黙示録」を記した。十二使徒の中でただ一人殉教せず、95歳まで生きたとされる。

【参考】イザヤ書 53:1～12

わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあるか。乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように／この人は主の前に育った。見るべき面影はなく／輝かしい風格も、好ましい容姿もない。彼は軽蔑され、人々に見捨てられ／多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し／わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。苦役を課せられて、かがみ込み／彼は口を開かなかった。屠り場に引かれる小羊のように／毛を刈る者の前に物を言わない羊のように／彼は口を開かなかった。捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか／わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり／命ある者の地から断たれたことを。彼は不法を働かず／その口に偽りもなかったのに／その墓は神に逆らう者と共にされ／富める者と共に葬られた。病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ／彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは／彼の手によって成し遂げられる。彼は自らの苦しみの実りを見／それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために／彼らの罪を自ら負った。それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびたしい人を受け。彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人の過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。